

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は大体の児童が習熟しています。長音・促音・撥音・助詞(は、へ、を)の習得には個人差があります。 音読は、はっきりと大きな声で読むことを意識して取り組んでいます。 自分の考えを話すことは積極的にできるが、相手の話を聞くことが苦手な児童がいます。 読解の問題では、聞かれている事の意味が理解できず、正答にたどり着かない児童が少しいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な平仮名、片仮名とその文字を使った言葉を繰り返し練習して覚え、全員が100点になるよう定着を目指します。 長音・促音・撥音・助詞を文の中で正しく使うことができるように文を作る機会を多く作ります。 聞く力を付けるために本の読み聞かせを行ったり、対話の活動を多く取り入れたりして、集中して話を聞く時間を作ります。 聞かれていることを確認してから答える習慣が身に付くよう、練習問題を繰り返し行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は1文字ずつ、片仮名は2文字ずつのプリントを家庭学習に取り入れ、さらに習熟が心配な児童には休み時間や放課後に個別に学習する時間を設けます。 音読カードを活用し、得意な児童には暗唱にも挑戦させ、苦手な児童にはゆっくりでも正しく読む経験を重ねさせます。 モジュールの時間に、学習用パソコンで「は、へ、を」の復習などをさせます。 読解に慣れてきた児童は、問題作りを行い、自分が考えた答えにたどり着くためにはどのようなことを聞けばよいか考えさせます。読書の時間を確保します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項(漢字及び言葉)の定着に課題があります。新出漢字の指導において、字形や筆順指導、読み方に重点を置いて指導していますが、適宜繰り返して指導を続けることが必要です。 言葉の指導では、文法的事項(主語・述語)を正しく使って文章を書くことを適切に指導していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストやまとめのテストで目標点を定めて取り組む様に計画します。目標点に達するような手立て(プリントやワークシート)をとります。目標点に達しない児童には再テストに取り組ませ、達成感を味わわせる指導を行います。 作文や文章を書く学習では、既習の漢字を積極的に使えるように支援します。また主語や述語をはっきりさせ、読み手が分かりやすい文章が書けるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を意識して文章が書けるようにするために、句読点やかぎを正しく使えるように指導し続けます。また主語と述語をはっきりさせた文章が書けるように指導します。漢字を使うと読み手に意味が伝わりやすいことを指導し、習った漢字を使って文章を書く大切さを繰り返し指導していきます。 読書活動を充実するために、朝読書や図書で粗筋をつかむことに目を向けさせたり、短い文で感想を書き表す紹介文を書いたりすることに取り組めます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きは、部首を意識させたり、学習した漢字を使った言葉を集めたりしながら、漢字への関心を高められるように指導しています。 漢字テストでは、書けていますが、文章の中で使えていない児童が多く見られます。 物語や説明文の読み取りは、文章の構成や言葉の意味を丁寧に指導していますが、個人差が見られます。 書くことに関しては、漢字ノートに、漢字を使った文を考えて書く宿題を出していますが、文が分かりづらかったり、誤りが見られる児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を文章の中で使えるように、文章を書いたら、読み直す習慣を付けていきます。 漢字のノートに短文を分かりやすく書けるようにするために、主語述語を意識させて書くように指導します。 文章の読み取りでは、言葉の意味を捉えられるように、意味調べをしたり、「まず、つぎに、そして、最後に」などの順序を表す言葉や指示語、中心となる言葉に着目して、読み取らせたりするように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の充実のため、読む時間を確保し、読書カードに読んだ本を記録して、読書を習慣化させます。 毎日、音読の家庭学習に取り組ませ、読むことに慣れさせていきます。 意味の分からない言葉は、国語辞典を使って調べる習慣が付くように、国語辞典の引き方に慣れさせていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に関しては興味関心をもたせながら、定着を図ることができました。 「書くこと」に関して個人差が大きく、詳しく自分の思いを書いたり、考えをまとめたりすることに大きな課題があり、個別の支援が必要です。 「読むこと」に関して、最後まで正確に読めていないことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストやまとめのテストなど、時期と範囲を知らせ、計画的に学習できるようにします。また、目標点を設定し、繰り返し練習したり、再テスト等を行ったりし、習熟を図っていきます。 「書くこと」に関する授業で、個別に指導ができる場の設定の工夫や習熟度別のワークシートの工夫などに取り組みます。 文章の構成や接続詞、指示語に着目して読み取ることを指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの時間を活用して、漢字の学習を中心に組みませます。 読み取る力を伸ばすために、読書時間の確保をし、読書の習慣化を図ります。読書カードに読んだ本を記録し、自分の読書活動を振り返らせます。 国語辞典、漢字辞典、学習用パソコンを活用し、意味の分からない言葉等を自分で調べ、活用していく力を付けます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に関しては、小テストを使って補足練習を行ったり、目標点を設定してテストを繰り返し行ったりしましたが、定着が不十分です。普段から習った漢字を使う習慣を身に付けていくことが課題です。 書くことに対しての苦手意識をなくすために、文字数を指定して文作りに取り組ませたり、自分の考えを書きたいと思えるような学習課題作りを工夫したりする必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週小テストをする曜日を決めて、漢字小テストを行います。確かなめ時間を設け、十分習得できるようにします。まとめテストでは、目標点を目指し、再テストに取り組ませます。 「書くこと」の学習では、教材文の優れた構成を学ばせるとともに、構成を指定して短文を書かせる活動を授業に取り入れて、「書く」活動に慣れさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に対する興味を高めるために、へんやつくりに着目した漢字の書き取りや、クイズ形式にするなど出題の工夫を行います。 教師が選んだ新聞記事を読み、要約したり、感想を書いたりする学習を取り入れます。 常に手元にマイブックを置き、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、読む習慣を身に付け、自力で読み取る力を伸ばします。 分からない言葉はすぐに辞書で調べることを習慣化し、語彙力を高めさせます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に関しては、小テストを使って補足練習を行ってききましたが、3割の児童は定着が不十分でした。 提案文を書く学習では、身近な問題をテーマに学習を進めたことで、児童が意欲的に取り組んでいました。班で文章を作成したことで、教え合いながらスムーズに学習に取り組んでいましたが、個人での活動では文章力に大きな差が見られました。全体として、語彙力が低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、児童全員がまとめテストで9割以上の漢字を書けることを目指し、未到達者は再テストに取り組ませます。 週に一回、新聞記事を活用した学習時間を設け、新聞記事の要約やそれを受けて自分の考えをまとめ、児童間で交流することで、文章力・読み取る力を伸ばします。 作文指導では、構成の段階から友達と交流することで、推敲する視点を多様化させ、表現活動を充実させて表現力を高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に対する興味を高めるために、つくりやへんに着目した漢字の書き取りなど学習方法を工夫させます。また、朝学習では、学習用パソコンのソフトを活用して、「漢字を読む」学習に取り組ませ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。 知らない言葉は意味を辞典で確かめたり、交流する場面において別の表現での言い換えを考えたりする学習を取り入れます。 読み取る力を伸ばすために、読書の時間を確保し、読書の習慣化を図ります。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・北区について興味関心をもって、学習に取り組むことができた反面、資料の読み取りについては、個人差が大きいです。 ・学習のまとめとして、白地図に表した際、いくつかの資料を関連付けてまとめられる児童が少なかったため、資料の読み取りを丁寧にし、関連付けて考えられるようにしていきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る際には、特徴的な部分について着目して読み取るように指導します。 ・資料の読み取りをする際に、読み取らせたい内容について、全体で1つ1つ丁寧に確認をしていくようにします。 ・スーパーマーケットや工場、消防の学習に関しては、自分たちの生活との関わりを想起させながら、主体的に取り組めるように指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を使って、地図記号や地図の見方について学習し、興味関心を高めるとともに、地図の見方に慣れるように指導していきます。 ・北区の歴史「はじめの一步」を活用し、北区の歴史への関心を高めていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、動画等学習用パソコンを活用し、学習を行っています。単元の終わりには学習した内容を、自分でまとめさせる学習を取り入れていますが、基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られ、まとめの内容に大きな差が出ています。 ・資料を正しく読み取ることや課題にあった資料を選択すること等を授業の中で指導、確認していますが、定着が十分でない児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めや終わりに、単元の中の重要な用語などの定着を確認するための時間を設定します。 ・授業の中で、資料の読み取り方や必要な資料の選択方法など丁寧に取り上げ、友達と交流する活動を通して表現する力や読み取る力を付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集や学習用パソコンを活用し、単元の動画やスクールタクト、eライズライブラリーなどで、都道府県についてや社会科の基礎的な用語や知識の定着を図ります。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を使って調べるだけでなく、疑問に思ったことや調べたいことを自分で分かりやすくノートやパソコンにまとめて表現する活動を取り入れました。 ・単元の終わりに、学習した内容をまとめる活動も行いましたが、意欲や資質能力に個人差があり、同じ学習内容でも習得事項に差があるため、調べる情報量やまとめの内容に大きな差が表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の設定や資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり、定着するようにします。また、学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせることで、知識・技能の定着を図ります。 ・表やグラフ、写真や動画などから読み取ったことや、調べたことをまとめた物を交流することで、友達のよい読み取りやまとめ方を参考にする機会を増やし、表現力を高めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の単元から発展した内容の写真やグラフ、図表などを掲示し、興味・関心を高めます。また、複数の資料を比べる活動を通して、読み取るべき情報を意欲的に見付けることができるようにしていきます。「新聞」も活用し、資料の読み取りの練習もしていきます。 ・授業始めの5分間に、県名や国の名前、大陸、海洋の名前を正確に書けるようにミニテストに取り組みさせます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、学習用パソコンを活用した調べ学習を行い、思考ツールを用いてまとめさせています。単元の終わりには学習した内容を学習問題に沿って自分でまとめさせる学習を取り入れていますが、基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られます。 ・重要な情報を取捨選択し簡潔にまとめられるようにしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題づくりや資料の開発・提示方法を工夫し、学習がより深まり、定着するようにします。 ・毎回の授業や単元の終わりのまとめにおいて、学習問題に対して端的に表現することを意識させます。重要なポイントをおさえ児童自身の言葉でまとめることで知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習などで学習用パソコンを活用して苦手分野である「国土の自然などの様子」「産業と情報との関わり」、資料の読み取り問題に取り組ませ、知識・技能の定着を図ります。 ・期間を決めて授業はじめの5分間を確保し、歴史上の人物や都道府県と国の名称と位置等を正確に書けるように取り組ませます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解を考えるときにすぐに解答が思い浮かばない児童が少しいます。 ・手指や具体物を操作しないと、たし算・ひき算（繰り上がり・繰り下がりなし）を正しく計算できない児童が少しいます。 ・文章問題を正しく読み取ることができず、演算決定をし、立式できない児童が少しいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解や2とび、5とびの教え方を百玉そろばんを使って毎日唱えることで、「2と8で10」「6と4で10」などの確実な定着を図ります。 ・算数タイムや合間の時間に計算カードをしたり、たし算・ひき算ビンゴをしたりして、計算力を付けます。 ・文章問題は、キーワードになる言葉（あわせて、ちがいは）に着目させて考えようにさせます。キーワードについて明記した掲示物を常に掲示します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中ではまず、算数ブロックなどの具体物を操作させ、「たす」「ひく」を手でも目でも実感させます。演算決定をする際のキーワードについて色分けして板書し、ヒントとなるようにします。 ・算数タイムなどで計算カードを使い、反復練習や学習用パソコンで復習をさせます。 ・家庭学習でドリル学習や計算問題やミニ文章問題に取り組むようにさせ、理解を定着させます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素に目を向けることができるように、辺や角、頂点に注目して図形を見たり、かいたりする必要があります。 ・繰り上がりや繰り下がりが計算に苦手意識をもっている児童がいるため、正しく答えが求められるようにしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形、箱の形の学習では、三角定規を使って、辺の長さや頂点の数、角の形に目を付けて、図形の問題解決ができるように指導します。 ・計算カードを利用して、繰り上がりや繰り下がりのある計算、かけ算九九がスムーズに答えを出せるように練習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの補充問題で苦手傾向がある問題を準備し、適宜取り組ませていきます。 ・算数タイムを活用して、計算ドリルの問題だけではなく、マス計算などを適宜取り入れて、計算力の習熟を図っていきます。また論理的思考力が身に付くように、問題解決型の学習では、問題把握や解決に児童の主体的な学習を促します。 ・他者の考え方を知り、数学的な見方や考え方を広げられるようにします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・普段と違う聞かれ方をすると問題や文章問題で誤答をすることが多いため、問題文をきちんと読んで「何を問われているか」を正しく理解する必要があります。 ・問われていることに対して身に付けた技能を使って、問題を解決するという解決のステップを身に付ける必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を最後まで丁寧に読んだり、問題に粘り強く取り組めるよう、声かけを行います。 ・話の要点を捉えられるよう、問題の中で重要なところに線を引いて、注目できるように指導を行います。 ・問題を順を追って解決できるように、解決の見通しをもたせる時間を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムで東京ベーシックドリルやその他学習プリント等に取り組ませることで、問題解決に必要な基礎的・基本的な知識技能を定着させます。 ・解答後に、問題文と答えを見直して、正しく答えられているか確認する習慣を付けられるよう声かけします。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域では、たし算・ひき算が混在していると誤答しやすいため、間違いやすいポイントを丁寧に抑え、声かけを行いながら習慣付けていく必要があります。 ・目盛りの大きさを正しく読みとることを苦手とする児童が多いため、読み取り方を丁寧に確認する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題で間違いやすいポイントを丁寧におさえます。 ・習熟度に合わせて指導内容を工夫します。児童が自分の考えを書いたり説明し合ったりする活動を取り入れるとともに、学習のまとめやふり返りを自分の言葉で書けるようにします。 ・教科書の補充問題やeライブラリを活用して、演習問題の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムや宿題で、東京ベーシックドリルやeライブラリでの学習を適宜取り入れ、計算力の習熟を図ります。 ・練習問題を解いた後やテスト時に、間違いやすいポイントをおさえながら検算や見直しを行う習慣を付けられるよう、声かけを行います。 ・コンパス、分度器などの使い方を確認し、「図形」領域の知識・技能の定着を図ります。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習のコースごとに興味をもって学習に取り組めるよう、工夫して行っています。習熟度の高いコースでは、自分の考えを説明し合う活動を行ったり、基礎的な知識を習得するコースでは、具体物を用いたり、ワークシートを使ったりして授業を行っていますが、基礎・基本の習得が十分ではありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別のコースを工夫して編成し、児童同士で教え合いができるようにします。 ・復習問題を授業の最初に行ったり、適応問題を授業の最後に行ったりすることで、繰り返し問題練習ができるようにします。 ・具体物、半具体物を用いて形をイメージしながら学習したり、実際に操作して学習したりすることで、理解を伴った知識を身に付けられるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度の高いコースでは、既習事項を活用して発展、活用問題に取り組み説明することで、問題を自分で解決していく力につなげていきます。 ・算数タイムでは、東京ベーシックドリルや学習用パソコン等、様々な学習方法を活用し、基礎的な問題に取り組ませます。 ・コンパス、分度器などの使い方を確認し、「図形」領域の基礎的な知識・技能の定着を図ります。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「図形」領域である「面積」や「体積」の学習では、面積や体積を求める公式の理解や図形の辺や角の特徴の理解、また、「分数のわり算、かけ算」では、通分すること、約分することなど、基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて指導内容を工夫し、児童が自分の考えを説明し合う活動を取り入れたり、学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせたりします。 ・練習問題に取り組む時間を十分に確保することで、知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日2回練習問題に取り組ませることで、既習事項の振り返り、計算力を伸ばしていきます。 ・算数タイムでは、東京ベーシックドリルを活用して、課題である「図形」領域・「数と計算」領域に取り組ませ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。 ・コンパス、分度器などの使い方を確認し、技能の定着を図ります。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学習への関心は高く、実験や観察に意欲的に取り組むことができます。 実験方法を考えたり、実験や観察の結果から考察し表現する力に課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに行った実験や生活の中で感じたことを基に学習課題を作る授業を展開し、児童の学習意欲を継続させていきます。 考察の方法を指導・共有した上で、結果から考察する時間を確保し、友達への考えも共有し、自分の考えと比較しながら自分の考察について再考する機会を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法や器具の使い方、注意事項を意識させながら、一人一人が実験に取り組めるようにし、学習の経験を積ませていきます。 実験や観察の結果から分かったことを、教科書やプリントの問題演習を通して、知識として定着させていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 実験など理科の学習への関心意欲は高いが、苦手とする分野に対する関心が下がってしまうところが見られたため、動画を活用し興味関心を高める手立てとしています。 問題を解決するために実験方法を考えたり、それらの結果と関連付けて考察したりすることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を考え解決していく授業を展開し、自分の考えや友達の考えを交流させる時間を確保していきます。 論理的思考の展開ができるよう、ノート指導を丁寧に行っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の器具などを用いた実験に、一人一人が実際に取り組み、経験をすることで、理科の基本的な用語や器具の名称や使い方について定着させます。 単元の終わりに、確認問題やまとめの新聞等に取り組ませ、習熟を図ります。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実験前には、自分たちの生活経験を振り返り、問題を立て、予想とその予想を立てた理由を考えてから実験を行いました。 実験結果から、論理的に自分の考えを表現することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験を行う前に、問題作りの話し合いに重点を置き、なぜその実験をするのか必然性をもたせることで、主体的に学習に取り組めるようにします。 変化や働きをそれらに関わる条件に目を向けながら調べさせ、自分の考えと比較しながら実験に取り組めるようにします。 実験結果から自分の考えをノートに書かせ、グループで自分の考えを交流し合うことで、表現力を高め、実験結果を文章でまとめられるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度を高めるために、単元終了後は確認問題やプリント、学習用パソコンの問題に繰り返し取り組みさせます。 理科で用いる基本的な用語や器具（顕微鏡、メスシリンダー等）の名称や使い方など、基礎的な知識・技能を動画や確認プリントなどを活用し定着させます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高く、実験や観察には意欲的に取り組むことができます。しかし、一般常識の範囲における結果を既に知っているため、予想・根拠を考えることに消極的な児童が多いです。 「天気の変化」「魚のたんじょう」「ふりこのきまり」「顕微鏡の使い方」が、児童の苦手分野となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始まりに、既習事項を思い起こさせ、それを本時の学習内容に結び付けながら学習問題を作ります。 予想を自分の経験を基に立てさせたり、予想・考察を班で交流しながら行わせたりすることで、物事を多面的に捉え、問題解決力の向上を図ります。 実験や観察を行った後に、その実験や観察に関わる動画を視聴させることで、確実に知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認問題に取り組めない児童には、個別に声をかけ、実際の実験を思い出させるようにし、取り組みさせます。 理科で用いる基本的な用語や器具の名称、使い方等（特に「てこ」の学習）について、基礎的な知識・技能を動画や確認プリントなどを活用し、定着させます。